



毎日新聞の連載「東京ごみストーリー」。力の入った連載が11月3日から17日まで、10回にわたって掲載されました。ごみ収集の現場からの多角的なレポートで、大変読み応えがあります。ごみを収集するだけにとどまらず、高齢者のお困りごとに応じるような時代になってきているのですね。

ごみかんのホームページの「最新情報」とフェイスブックに10回分をまとめて掲載していますのでぜひご覧ください。

<http://gomikan21.com>

2018年2月の
ごみ大学セミナー
決まりました!

どうなる? 古紙や廃プラスチックの資源循環 ～海外輸出と国内循環をめぐって～

2018年2月18日(日) 13:30～16:00
国分寺労政会館 第4会議室(定員120名)

講師: 太田原 覚 さん (株)資源新報社 専務取締役

日本の古紙は回収量の2～3割を海外に輸出していますが、最大の行先は中国です。その中国が、年内にプラスチックや紙など一部廃棄物の輸入を停止するとWHO(世界貿易機関)に通告したそうで、実際にそうなると、相場の暴落、国内の古紙の余剰化が起きるでしょう。しかし一方、昨年の製紙工場の見学では、古紙が足りない、と聞きました。国内循環はどうなっていくのでしょうか?

20年ほど前、行政回収で集まりすぎた古紙の価格が暴落し、行き先がなく、回収が一時ストップしたことがありますが、果たして同じようなことが起きるのでしょうか?

そこで、2月のセミナーでは資源新報社の太田原さんにお呼びして再生資源の現状と今後について学習します。資源新報社は、リサイクル専門の全国紙「日刊資源新報」(昭和29年創刊)を発行している、再生資源の動向に詳しい老舗の新聞社です。この機会に、ぜひご参加ください。

お願い メアド登録について

ごみかんでは、メールアドレスを登録していただいた会員さんやごみ大学や交流会などでご縁のあった方に、メールニュースを配信しています。(毎月1月上旬)メアドを登録したのに送信されていないという方や、新たにメアド登録を希望される方は、表紙に記載されたアドレスまでメールをいただければ幸いです。

この

つばや記

我が家の生ごみは、旧ごみっと・SUNの108号「*いの*の編集後記拡大版」に書いたように、敷地の隅っこに埋めています。野菜や花を育てるほどの庭もないので、埋めっぱなしで消滅させています。

7、8年前に、ミヨウガの株を2本もらい、家とブロック塀の間に植えました。なんと根を張って、株も少しずつ増え、夏の終わり頃に小さいけれど食べられるミヨウガ(つばみ)がいくつかわ顔を出すようになりました。

今年、いつきに株の数が増え、生ごみを埋めている場所に近づいたのですが、びっくりしたのは、埋め立て場に近い3株の葉の繁り方が他とまったく違うことでした。生ごみパワーをもらったスペシャル株です。

そして、写真をご覧ください。左4つがスペシャル株のミヨウガです。市販のものよりも大きく、香も豊か!

「今頃かい」とツッコミをもらいそうですが、今さらながら、生ごみ堆肥のすざさがわかりました。

せっかく生ごみを埋めているのですから、来年はプランター栽培に挑戦してみようかと思っています。



ごみ・環境ビジョン21

年会費 = 個人会員 3,000円 団体会員 6,000円
賛助会員 10,000円(一口)

郵便振替 □座名: ごみ・環境ビジョン21
□座番号: 00130-1-603521

◆ごみっと・SUNのお受け取り方法は

- ①ヤマト運輸のDM便
- ②メール添付でのPDF配信 の二つがあります。
②をご希望の方はメールにてお申し込みください。

◆振替用紙にはご住所・お名前・お電話番号(FAX)をご記入ください。また、住所変更があった場合はお知らせください。DM便は移転先へ転送されませんので戻ってきてしまいます。

◆記事を転載する場合はご連絡ください。